

FIAT 131 ABARTH RALLY


TAMIYA

静岡市恵田原3-7 千422-8610

1/20 グランプリコレクション NO.13 フィアット131アバルト・ラリー



自動車が生まれ、人々の生活に身近なものとなるにつれて、交通の手段としてばかりでなく、スポーツの道具としても自動車は使われるようになってきました。現在では世界のいろいろな国々でさまざまなモータースポーツが行なわれていますが、ラリーもそのひとつです。

ラリーという言葉は英語で再び集まるという意味を持っています。競技はスタート地点から1台ずつスタートし、決められたコースを通過してゴール地点に決められた時間内に、あるいは、いかに早く到着するかを競います。よく整備されたサーキットを走るレースと違って、一般に使用されている道路やより条件の悪い山路や悪路を主な舞台としていること、また、参加する車輛が、F-1（フォーミュラ1）のように、レース専用で作られたレーシングカーではなく、一般に走っている、あるいは人々が実際に日常使用している車もとに改造が加えられて作られていること、などによる身近さがラリーならではの魅力と言えるでしょう。

1904年にドイツで行なわれたのが、世界最初と言われていますが、今では日本でもラリーは行なわれ、高い人気を集めています。もちろん、世界各国では、より長い伝統や歴史を持ったラリーも開催されています。中でも、雪と氷の冬のアルプスを舞台に繰り広げられるモンテカルロラリーと、アフリカの大自然の中で展開されるサファリラリーは、ご存知の方も多いことでしょう。そんなラリーの何戦かに世界選手権としてのタイトルをつけ、それぞれのラリーの結果を総合して毎年ワールドラリーチャンピオンシップが争われています。世界中の自動車ファン、モータースポーツファンの注目を集める世界選手権シリー

ズは宣伝効果の大きいことと格好の耐久テストの場となることなどから、世界のさまざまな自動車メーカーがチームを作って参加。各チームのチャンピオン争いは、シリーズをますます盛り上げています。しのぎを削るメーカー同志の激しい争いの中で、1977年、78年と2年連続してワールドラリーチャンピオンシップのチャンピオンカーに輝いたのが、フィアット131アバルト・ラリーです。

この車の開発が始められたのは1975年のことでした。イタリア最大の自動車メーカーであるフィアットは、ラリーの世界選手権をねらうにあたって、自社の宣伝につながるよう、もっとも一般的な車を基本としてラリーカーを作ることに決定。その結果、フィアットのファミリーカーとして、高い人気を集めている、フィアット131ミラフィオリが選ばれたのです。この計画に従ってラリーカーへの改造を担当したのは、有名なチューニングメーカー、アバルト社です。アバルト社はサソリのマークで知られ、現在はフェラーリ、ランチアなどと共に、フィアットグループの1員となっていますが、ヨーロッパのレース界ではその名は広く知られています。

優勝をねらえる強力なラリーカーとするための改造は、エンジン、サスペンション、ボディ、ギヤーボックスなど、あらゆる面に渡っています。まず、エンジンは水冷直列4気筒1995ccで、A B A R T Hの文字がきざまれたDOHC16バルブシリンダーヘッドを装備。高度なチューニングによって、最高出力215馬力、最大トルク23kg/mを発揮します。ベースとなった131ミラフィオリと大きく違っているのはサスペンションです。前輪のみ独立懸架となっている生産車に対して、アバルト・ラリーは前後ともマクファーソン・ストラッ

ト型の4輪独立懸架となっています。もちろん、各アーム類もまったく新しく作り変えられていることは言うまでもありません。そして、ブレーキは、ドラム式だったリヤブレーキもディスクに変え、4輪とも強力なベンチレーテッドディスクブレーキとなり、強化されたサスペンションとともに、すぐれた走行性を発揮します。

一般的な箱型のスタイルを持つボディは、オーバーフェンダーをはじめ、フロントとリヤのスポイラー、そして、リヤスポイラーに有効に空気を導く、ボディ天井後部のスポイラーなど、空気力学的にチューンされているばかりでなく、ほとんどの部分がグラスファイバー製に変えられているのです。そのため、車体重量は975kgと、軽くなっています。ラリーへのデビューは1976年で、この年早くもM・アレンのドライブで、世界選手権シリーズのひとつ1000湖ラリーに優勝。続く翌年、1977年は世界選手権シリーズ5勝を上げチャンピオンカーとなり、1978年も5勝で2年連続チャンピオンとなったのです。また、1979年もチャンピオンこそ逸したものの、1000湖ラリーに優勝するなど大活躍しました。

フィアット131アバルト・ラリーは、1976年に、公式のラリーに出場するための資格（ホモロゲーション）を取るため、性能を少しおさえた市販型を生産し販売しました。必要な数は400台でしたが、高い人気を集め、生産中止となる1978年にいたるまでに、約1000台以上が生産されたと言われています。大自動車メーカー、フィアットと名チューナー、アバルトの息がぴったり合って誕生したフィアット131アバルト・ラリー。ラリーの長い歴史に残る、ラリーならではの魅力にあふれる傑作車と言えるでしょう。

作前にかならず
お読み下さい

〈作る前にお読み下さい〉

★お買い求めの際、または組み立ての前には必ず内容をお確かめ下さい。万一不良品、不足部品などありました場合には、お買い求めの販売店にご相談下さい。なお組み立てを始めた後は、製品の返品、交換などに応じかねます。

★タミヤからはピン入りの接着剤タミヤセメントが別売されています。モデルをきれいに仕上げるタミヤセメントをお使い下さい。

このキットは、モーターで走らせるモーターライズ・タイプと飾って楽しむディスプレイ・タイプの両方の部品が入っています。どちらにするか決めてから作りはじめて下さい。

★モーターライズにはマブチFA-130と単3電池1本が別に必要となります。★メッキ部品を接着する時は、必ず接着面のメッキをはがして下さい。

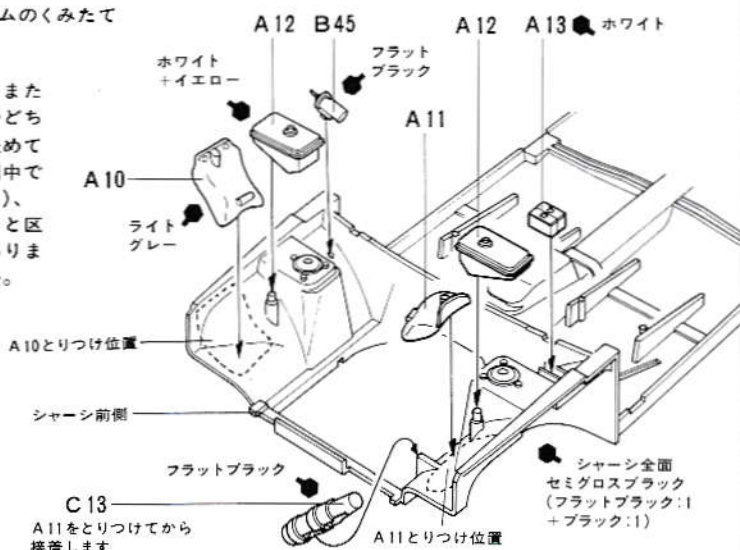
これは塗装指示のマークです。全体の塗装はP11を見て下さい。モデルの細部塗装には、プラスチックモデル用塗料、タミヤカラーが便利です。塗装指示の色名は、タミヤカラーの色名になっています。

★塗料は、必ずプラスチックモデル用をお使い下さい。

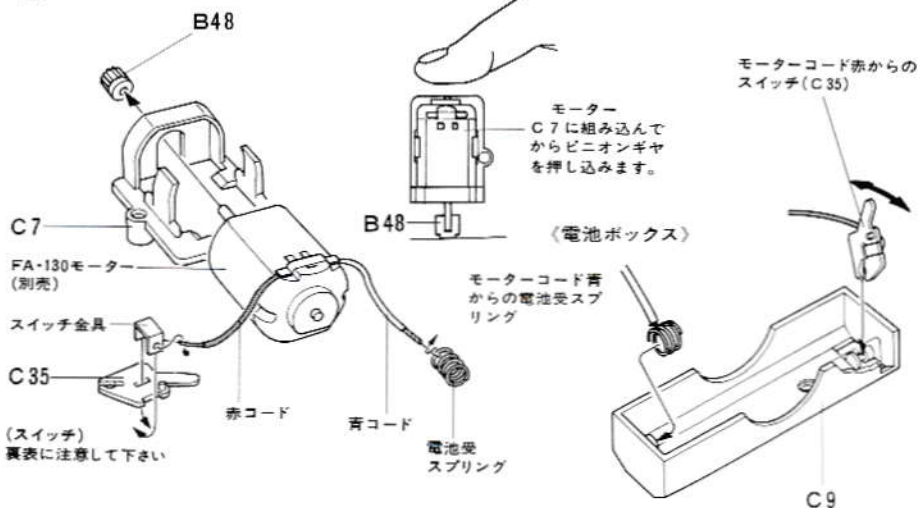
★このキットには接着剤が入っておりません。別にお買い求め下さい。タミヤからは液体接着剤タミヤセメントが発売中です。

1 エンジンルームのくみため

初めにディスプレイまたはモーターライズのどちらの仕様にするか決めて下さい。組み立て図中で(モーターライズ用)、(ディスプレイ用)と区別されている所があります。注意して下さい。



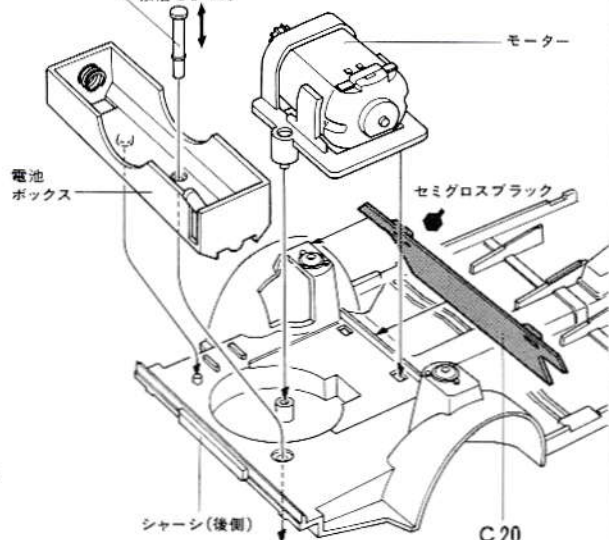
2 モーターブラケットのとりつけ(モーターライズ用)



3 トランクルームのくみため

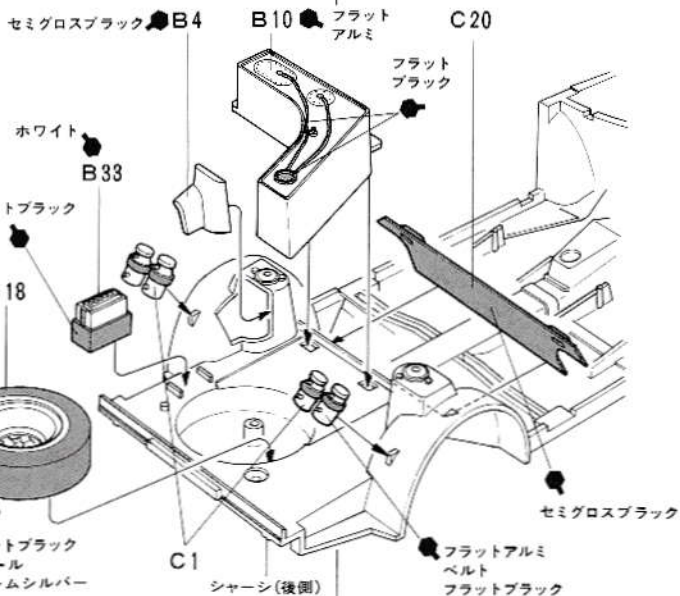
〈モーターライズ用〉

B12 電池ボックスをシャシにとりつけてから押し込みます。接着しません

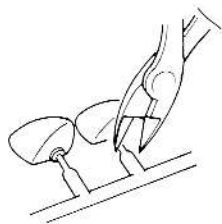


3 〈トランクルームのくみため〉

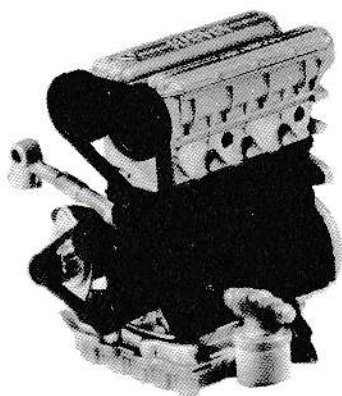
〈ディスプレイ用〉



★部品の切りはなしにはニッパーやナイフをお使い下さい。

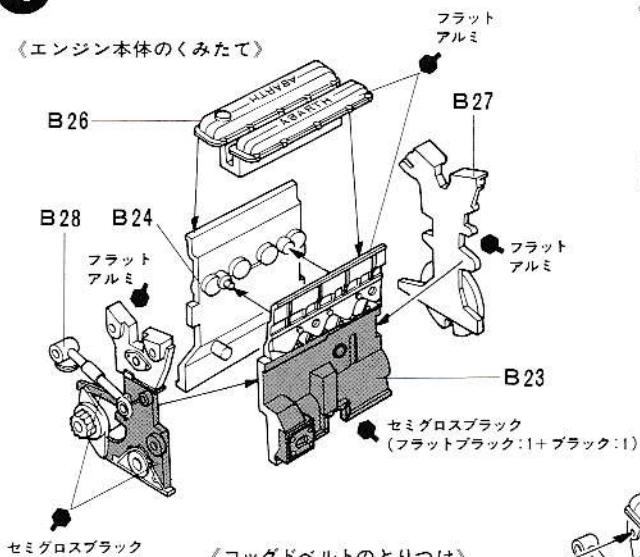


4 〈エンジンのくみため〉

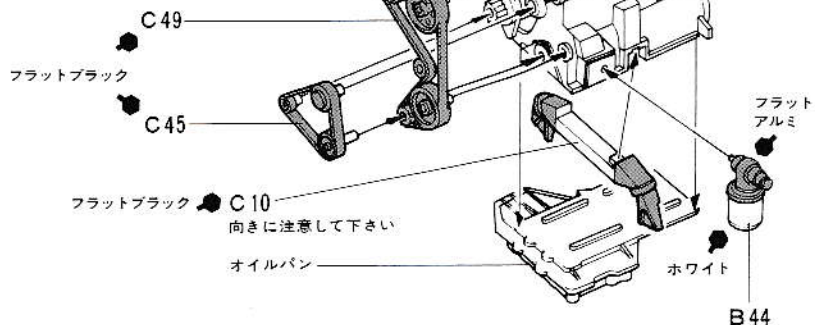


4 エンジンのくみため

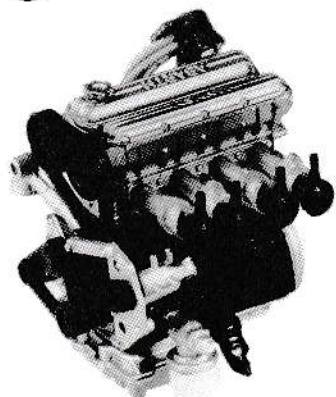
〈エンジン本体のくみため〉



〈コグドベルトのとりつけ〉



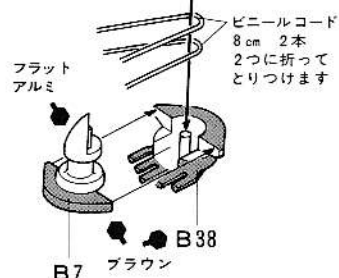
5 〈ディストリビューターのとりつけ〉



5 ディストリビューターのとりつけ

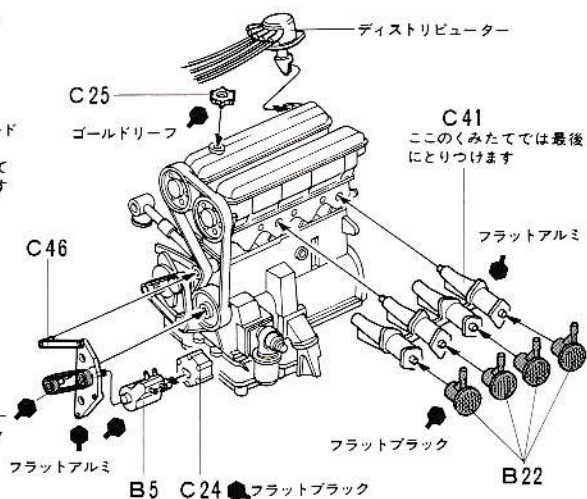
0 cm 1 2 3 4 cm

〈ディストリビューター〉



ビニールコードをとりつけてから接続します

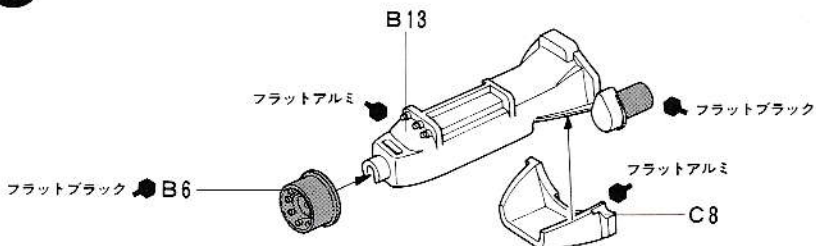
ベルトとプーリー フラットブラック



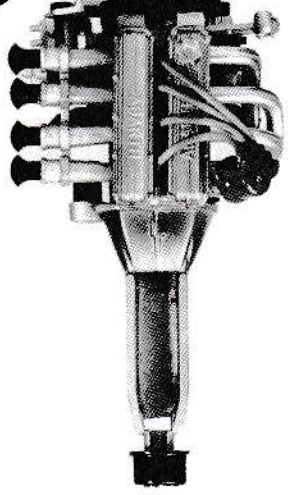
6 〈ギヤボックスのくみため〉



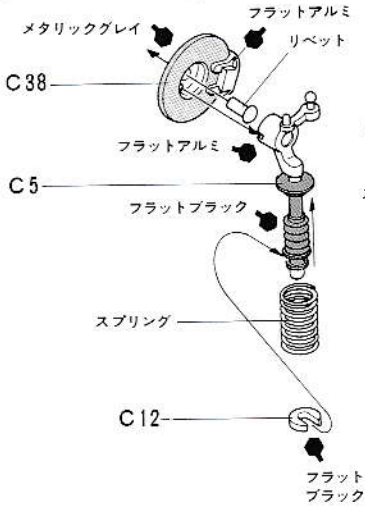
6 ギヤボックスのくみため



7 <ギヤボックスのとりつけ>

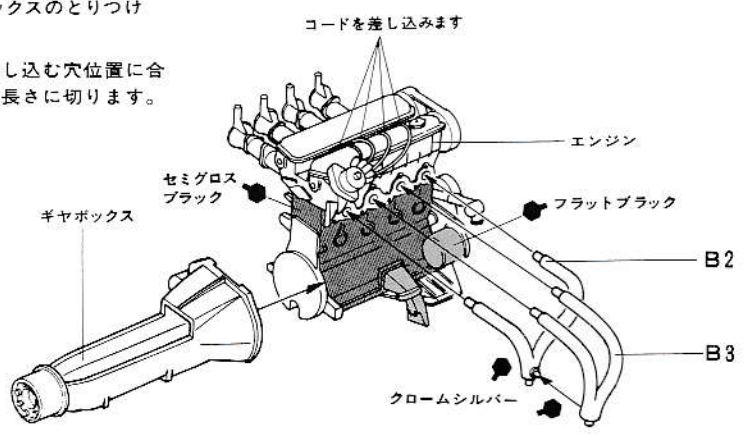


<フロントストラット左>



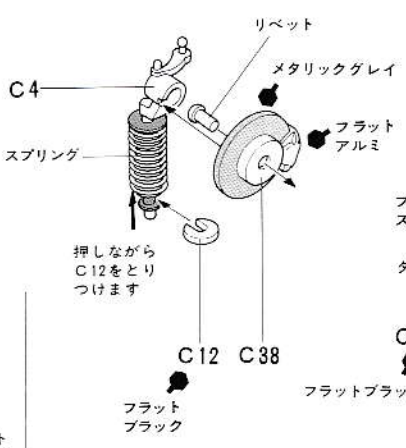
7 ギヤボックスのとりつけ

★コードは差し込む穴位置に合わせて適当な長さに切ります。

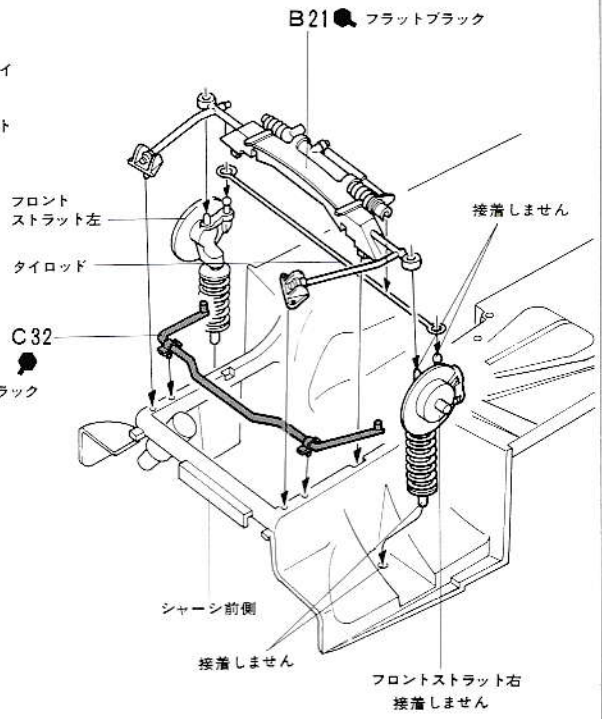


8 フロントサスペンションのくみため

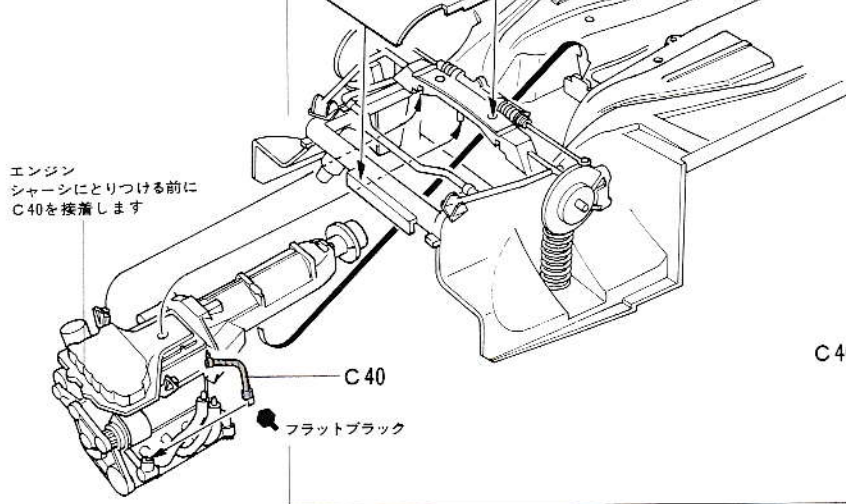
<フロントストラット右>



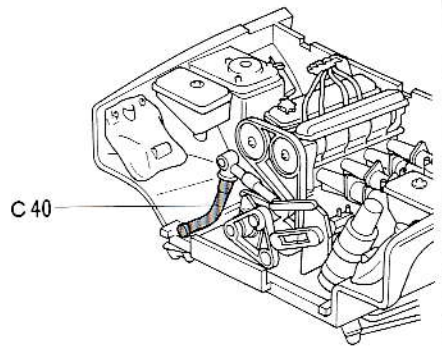
<フロントストラットのとりつけ>



<エンジンのとりつけ>

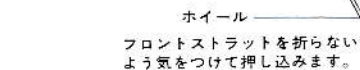
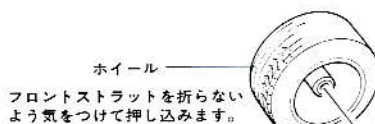
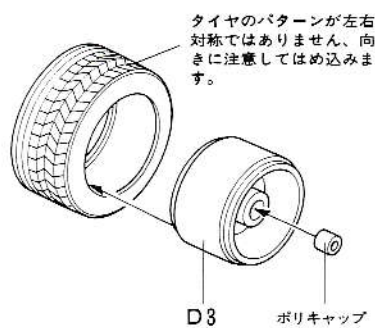


<C40とりつけ図>



9 《プロペラシャフトのとりつけ》

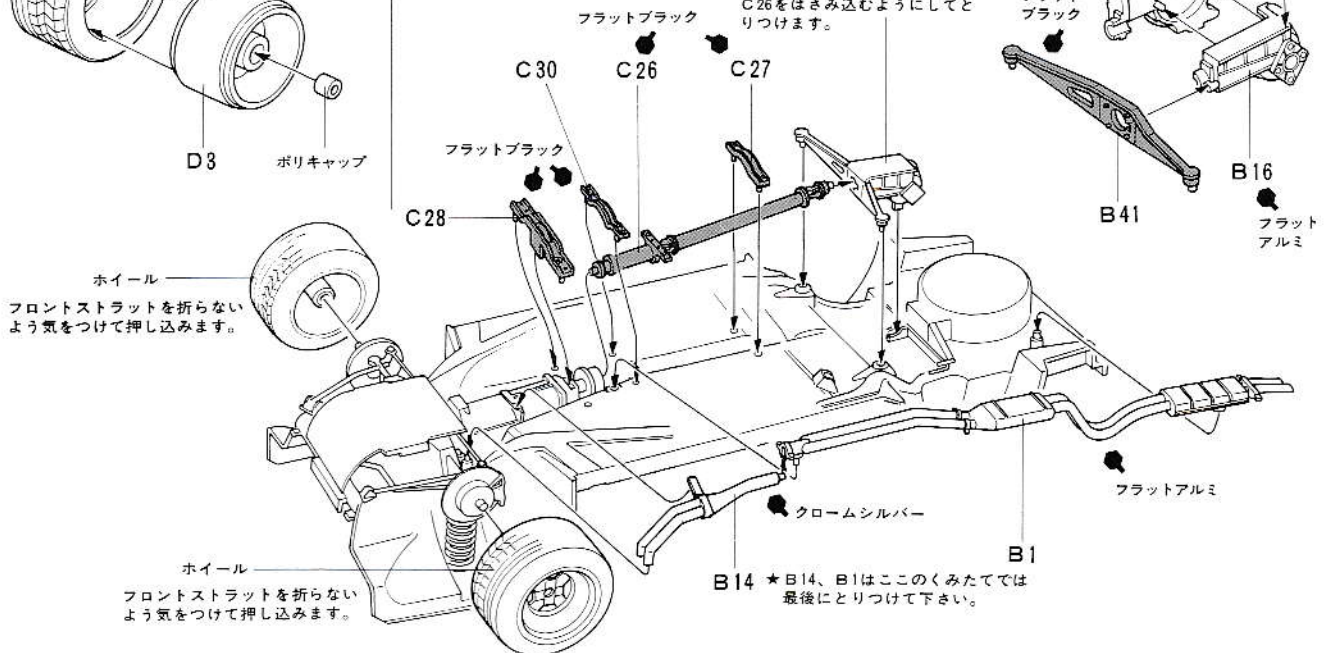
《ホイール》 ★4個作ります



9 プロペラシャフトのとりつけ

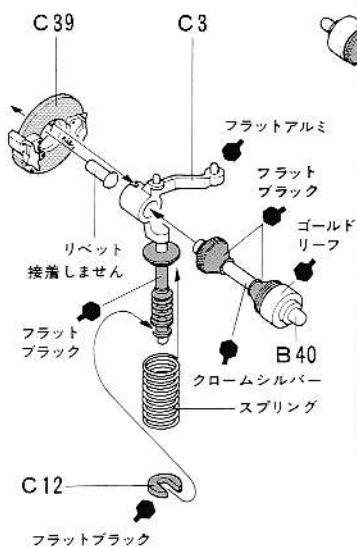
《デファレンシャルギヤボックス》

デファレンシャルギヤボックスはC26をはさみ込むようにしてとりつけます。



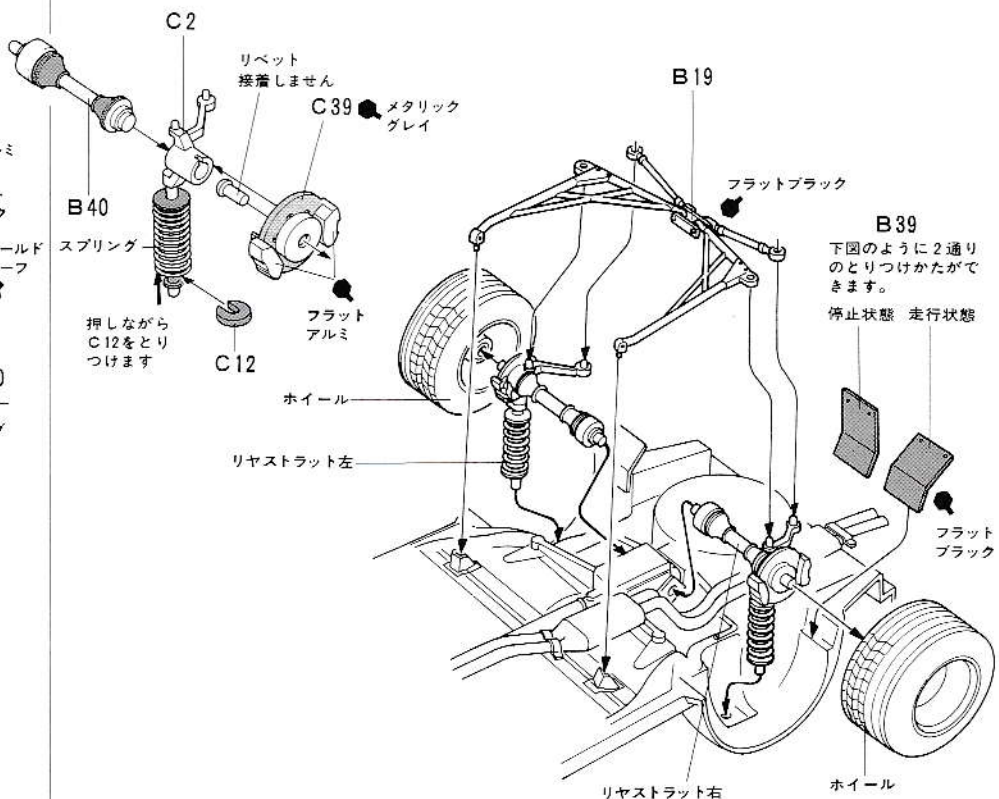
10 《リヤサスペンションのくみたて》

《リヤストラット左》



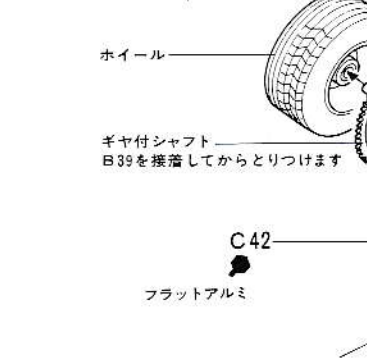
10 リヤサスペンションのくみたて(ディスプレイ用)

《リヤストラット右》



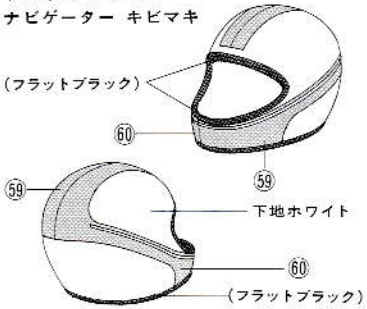
11 <リヤサスペンションのくみため>

ギヤ側の部分
だけ切りとります



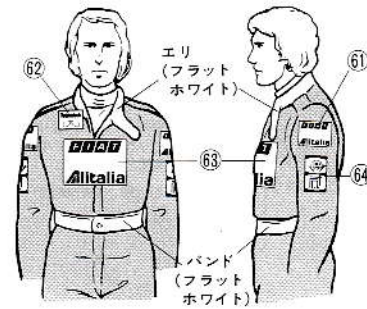
<ヘルメットのマーキング>
★マークをはる前に11ページを参照し
カーナンバーを決めて下さい。

ドライバー アレン
ナビゲーター キビマキ

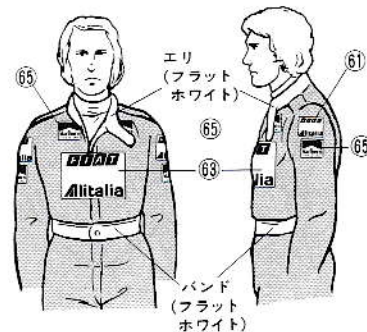


★ドライバー ロール、ナビゲーター、
ゲイストドルファの時、マークをはら
ずにホワイトで塗装します。

<人形のマーキング>
ドライバー ロール

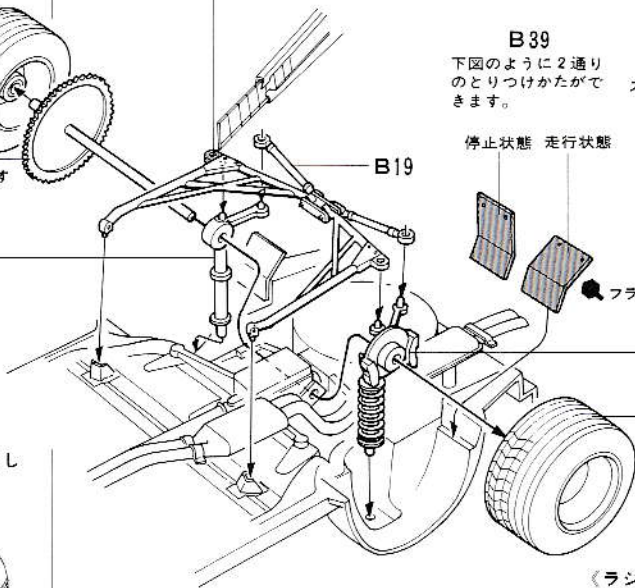


ドライバー アレン
ナビゲーター キビマキ、ゲイストドルファ

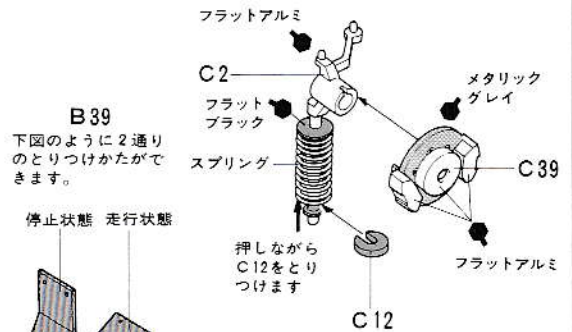


11 リヤサスペンションのくみため(モーターライズ用)

この部分をナイフ
で切りとります。



<リヤストラット右>



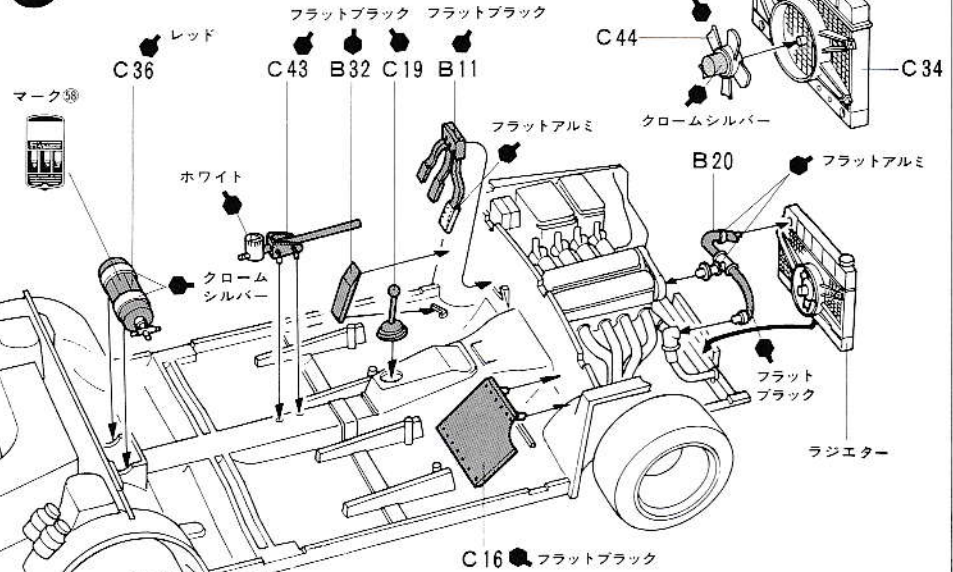
B39
下図のように2通り
のとりつけかたがで
きます。

押しながら
C12をとり
つけます

停止状態 走行状態

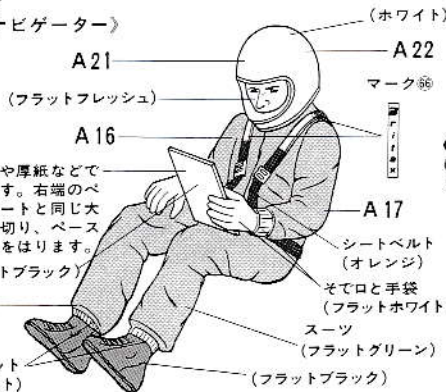
<ラジエーター>

12 ラジエーターのとりつけ



13 人形のくみため

<ナビゲーター>



プラ板や厚紙などで
作ります。右端のベ
ースノートと同じ大
きさに切り、ベース
ノートをはります。
(フラットブラック)

<ドライバー>



①でハンドル
に合わせてと
りつけます

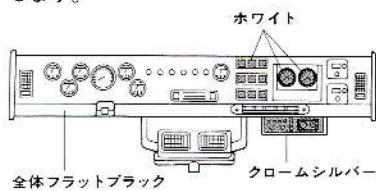
<ベースノート>



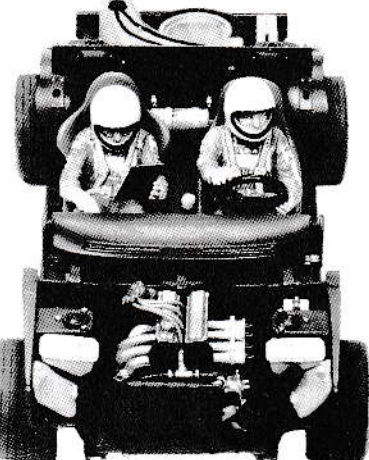
14 人形のとりつけ

《B37の塗装》

★メーターの針や目盛はレッドで塗装します。

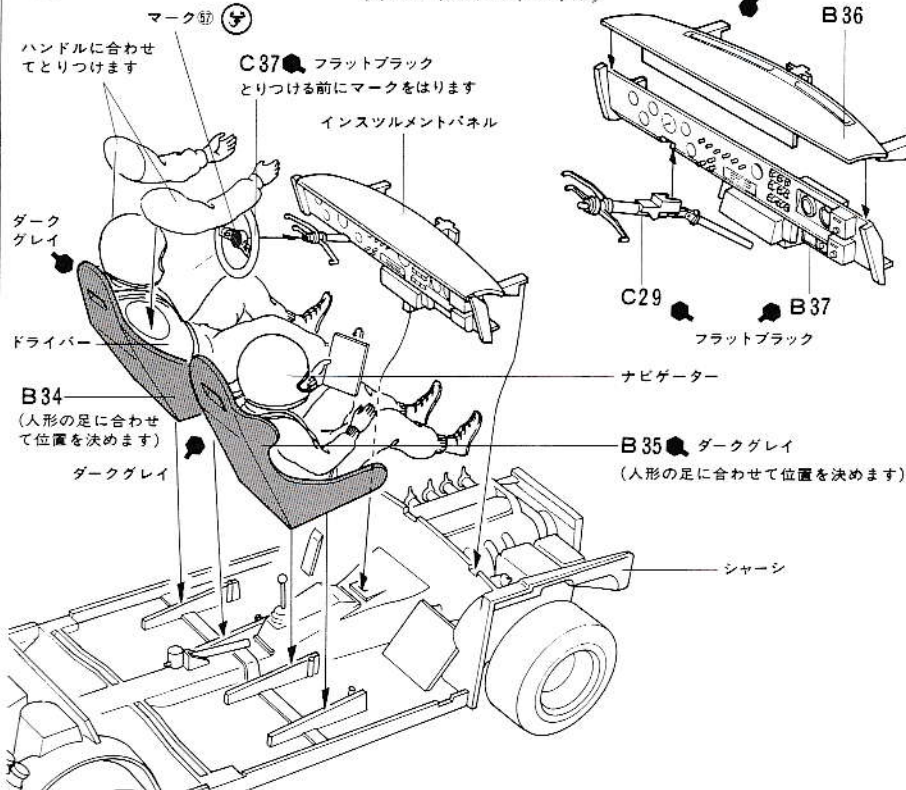


《人形のとりつけ》



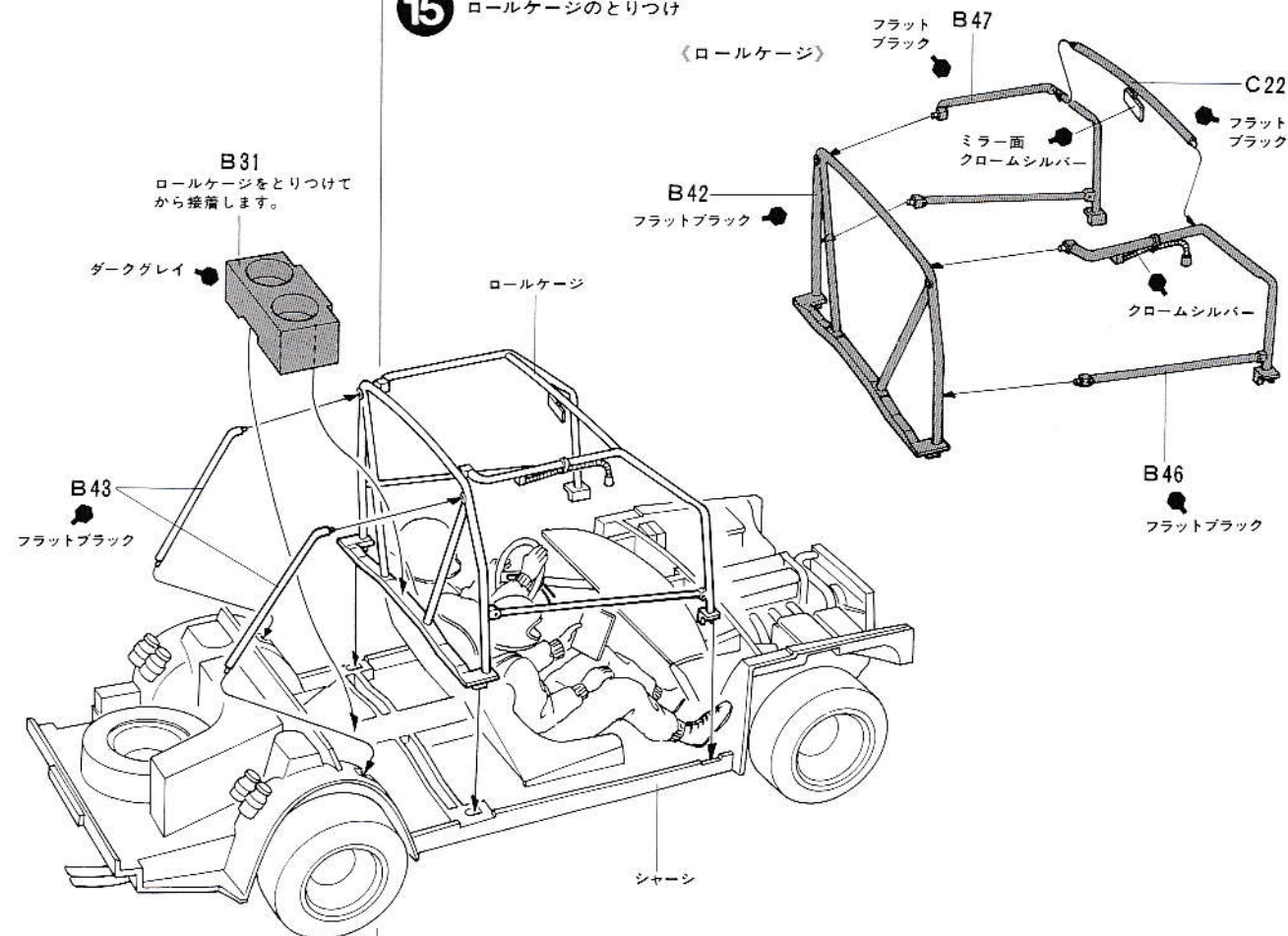
14 人形のとりつけ

《インストゥルメントパネル》

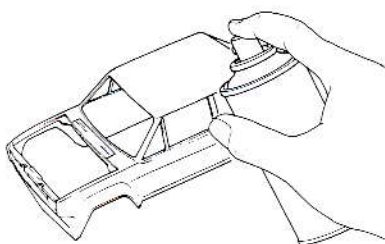


15 ロールケージのとりつけ

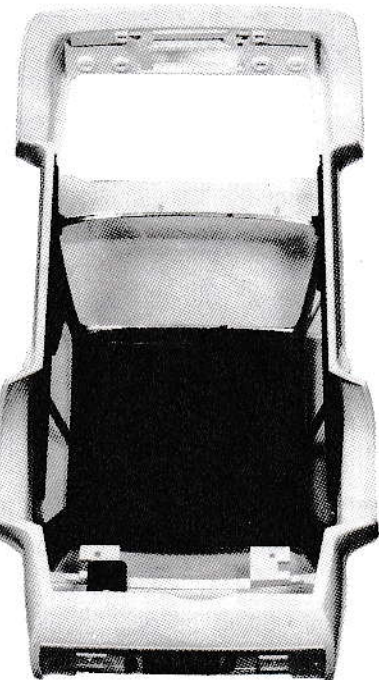
《ロールケージ》



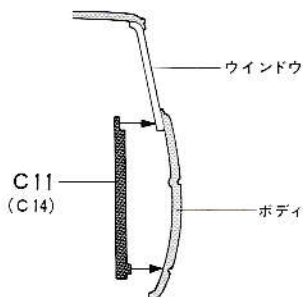
ボディ部品はくみ込みにする前に塗装をしておきます。ボディの塗装にはスプレー式タミヤカラーが便利です。



18 《ウィンドウのとりつけ》



19 《内張りのとりつけ》



TAMIYA COLOR

タミヤカラー(アクリル塗料)

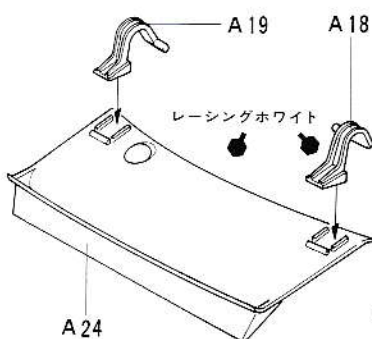
ぬりやすいアクリル樹脂の塗料です。筆は水洗いもできます。筆塗り、スプレーで美しい仕上がりが楽しめます。NET23cc



タミヤニュースを読もう

タミヤニュースはモデル作りの参考誌として多くの方に愛読されています。ご希望の方は模型店でおたずね下さい。当社より定期購読する方法もあります。

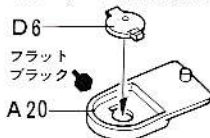
16 トランクリッドのくみ込め



18 ウィンドウのとりつけ

《フューエルキャップ》

★モーターライズの際は不要です



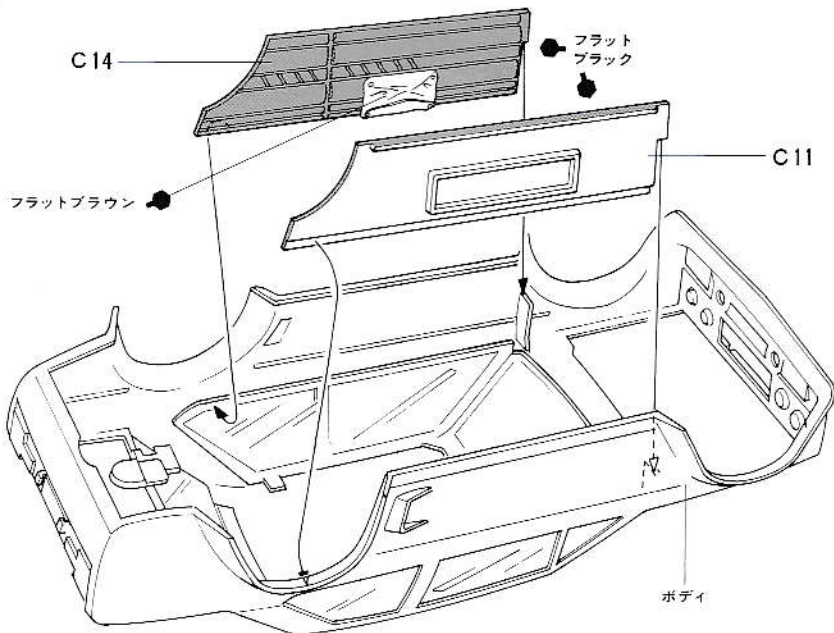
フューエルキャップ
モーターライズの際は
とりつけません

リヤパネル
上下に注意して
下さい。

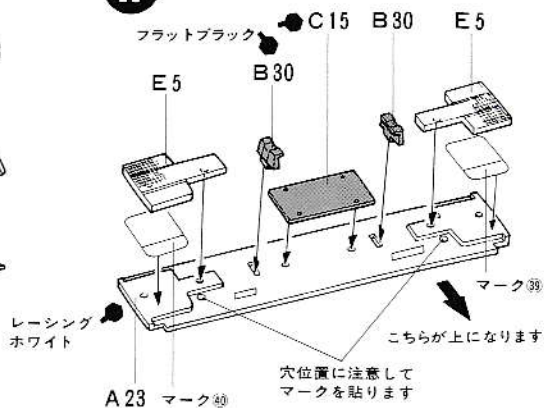
穴位置

きれいに切り
とりします。

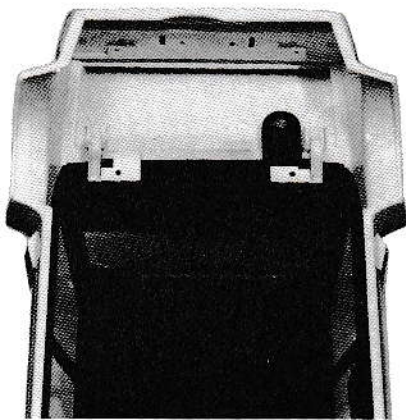
19 内張りのとりつけ



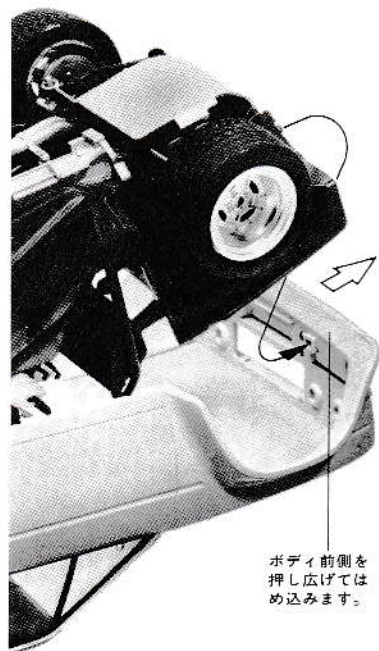
17 リヤパネルのくみ込め



20 トランクリッドのとりつけ



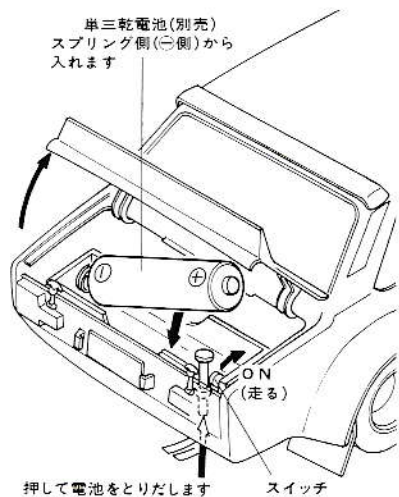
21 ボディのとりつけ



ボディ前側を押し広げてはめ込みます。

《電池の出し入れ・モーターライズ用》
★電池の出し入れをする時はスイッチは、切った状態にして下さい。

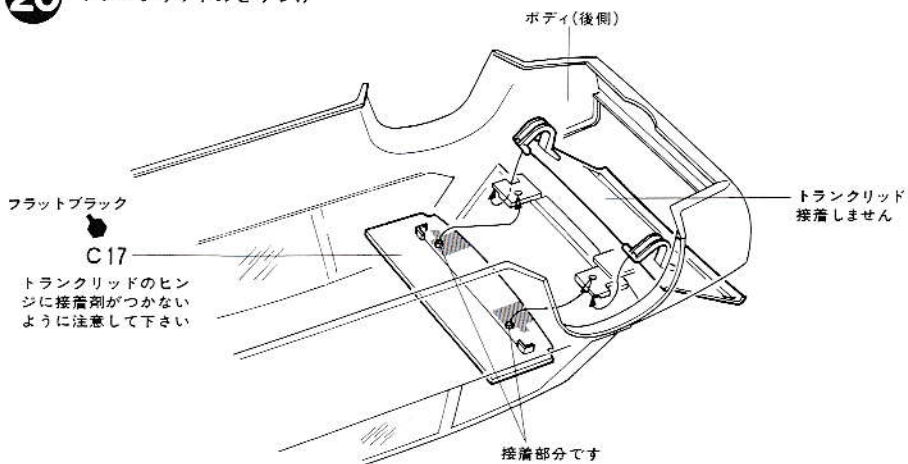
単三乾電池(別売)
スプリング側(○側)から入れます



押して電池をとりだします

スイッチ

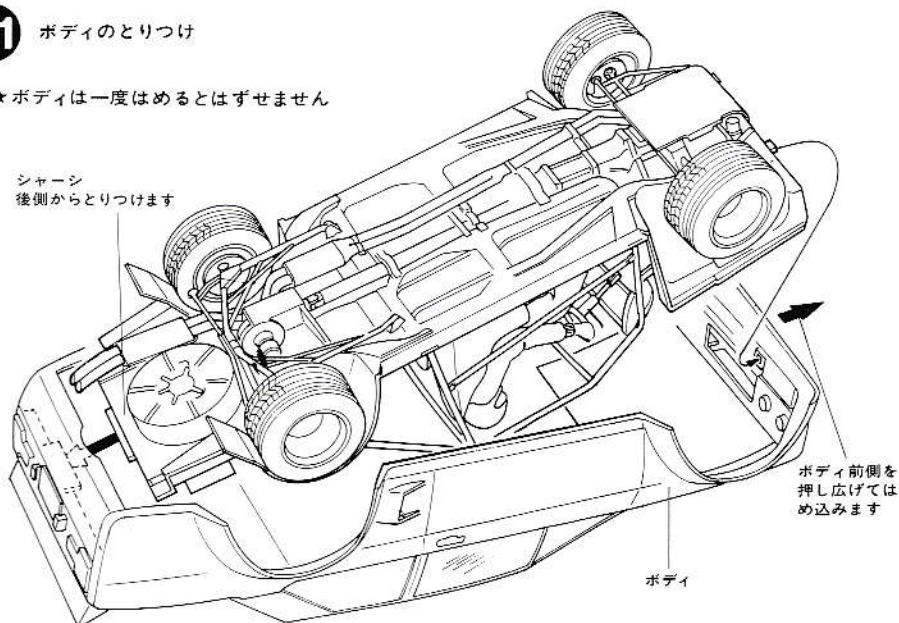
20 トランクリッドのとりつけ



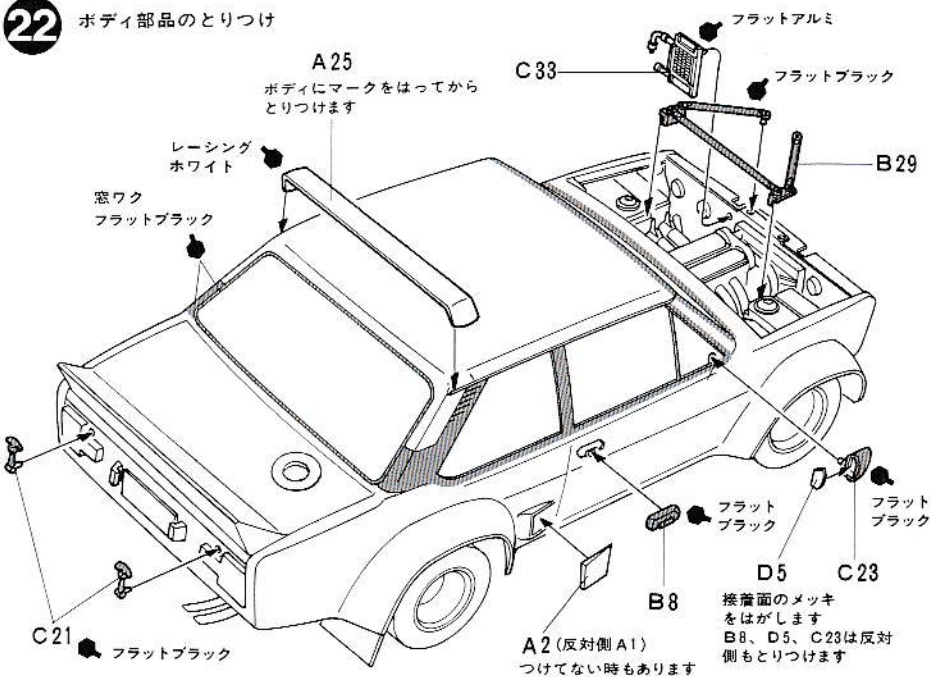
21 ボディのとりつけ

★ボディは一度はめるとはずせません

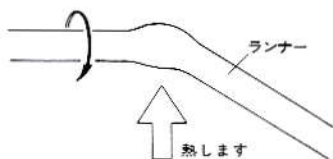
シャーシ
後側からとりつけます



22 ボディ部品のとりつけ



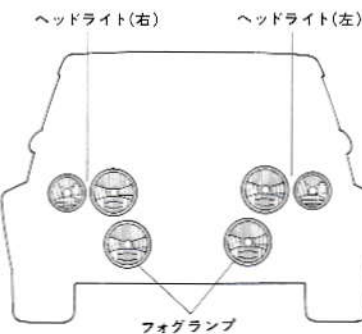
〈アンテナの作り方〉



図のようにランナー(枝)の1部をやわらかくなるまで熱します。

両側を引っ張り細くのばし、動かさずに15秒ぐらい冷したら指定の長さに切り、とりつけます。

25 〈ヘッドライトのとりつけ〉

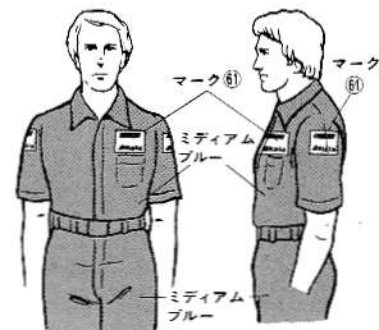


〈フロントグリルの塗装〉

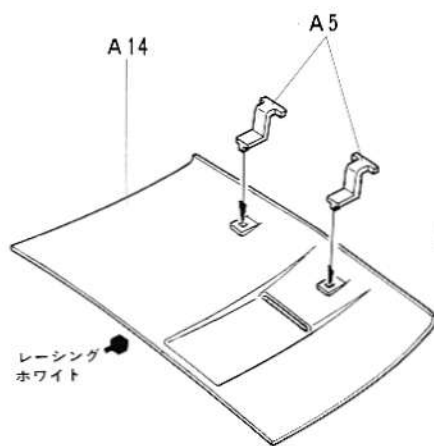


文字をホワイトで塗ります

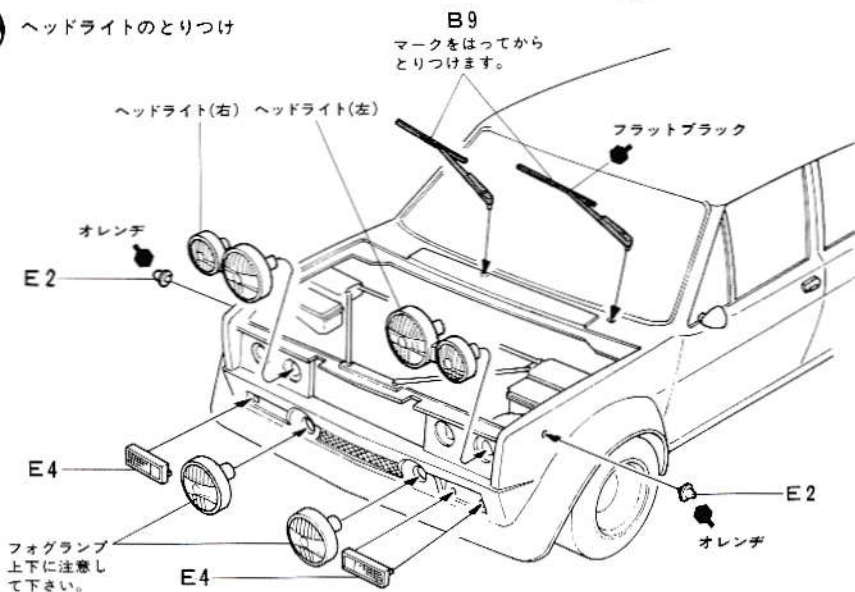
★このキットにはタミヤから発売されているレーシングチームセットのピットマン用のマークが入っています。使用されるかは下図を参考にはって下さい。



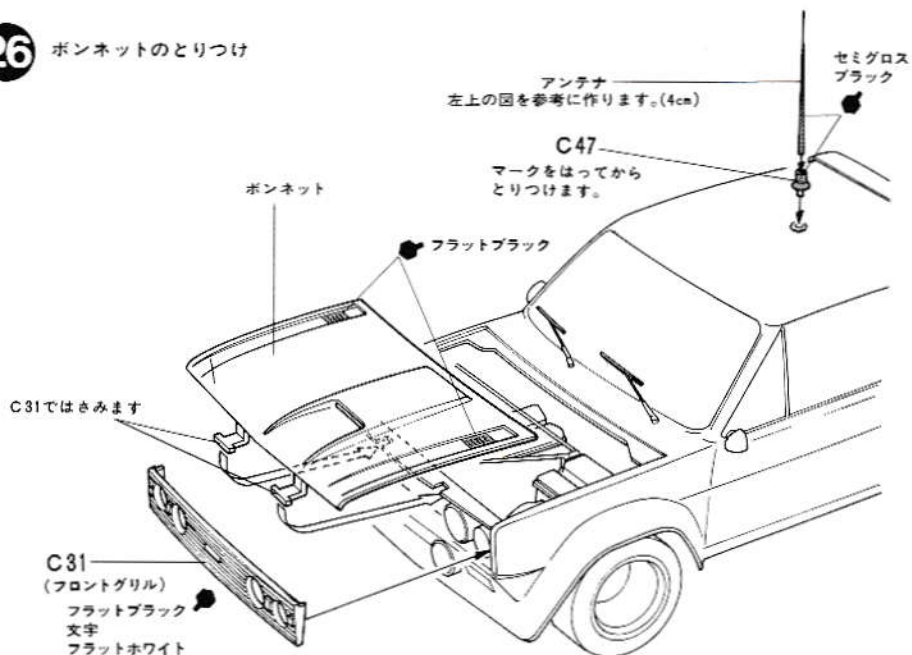
23 ボンネットのくみ込め



25 ヘッドライトのとりつけ

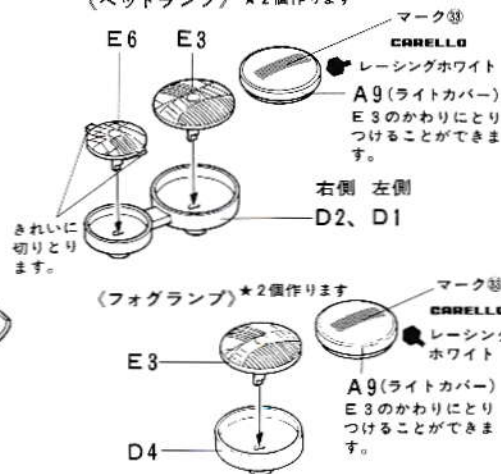


26 ボンネットのとりつけ



24 ヘッドライトのくみ込め

〈ヘッドランプ〉★2個作ります



PAINTING

〈フィアット131アバルトの塗装〉

フィアット131アバルトラリーのワークスラリーカーは1978、79年とイタリアの航空会社アリタリアのスポンサーを受けて活躍しました。ボディは白地に緑と赤の太いストライプが描かれていますが、これは、アリタリア航空の飛行機に描かれているのと同じカラーリングで、アリタリアのシンボルカラーです。ラリーによって細部のマーキングなどが違いますから右図を参考に貼って下さい。細部の塗装は説明図中に示してあります。なお、スプレー式クリヤーカラーをマークを貼った上からスプレーしますとマークを傷めますので使用しないで下さい。

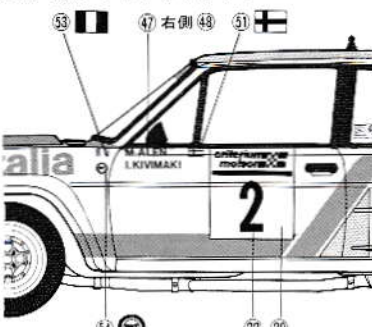
〈使用する塗料〉

タミヤカラー（スプレー式）
 レーシングホワイト……………TS7
 アクリル塗料/エナメル塗料（筆塗り用）
 ブラック……………X1
 オレンジ……………X6
 ブラウン……………X9
 クロームシルバー……………X11
 フラットブラック……………XF1
 フラットアルミ……………XF16
 ダークグレイ……………XF24
 メタリックグレイ……………XF56
 ライトグレイ……………XF66

カーナンバー	車輛番号(前)	車輛番号(後)
No.3. 9	R88538 TO	TO
ロールとゲイ ストドルファー		R88538
No.4. 2	R35975 TO	TO
アレンと キビマキ		R35975

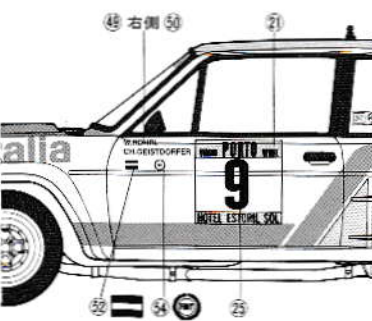
〈ケベックラリー〉 下記以外のマークはNo.3を参考に貼ります。

2位 No.2 アレンとキビマキ



〈ポルトガルラリー〉 下記以外のマークはNo.4を参考に貼ります

No.9 ロールとゲイストドルファー

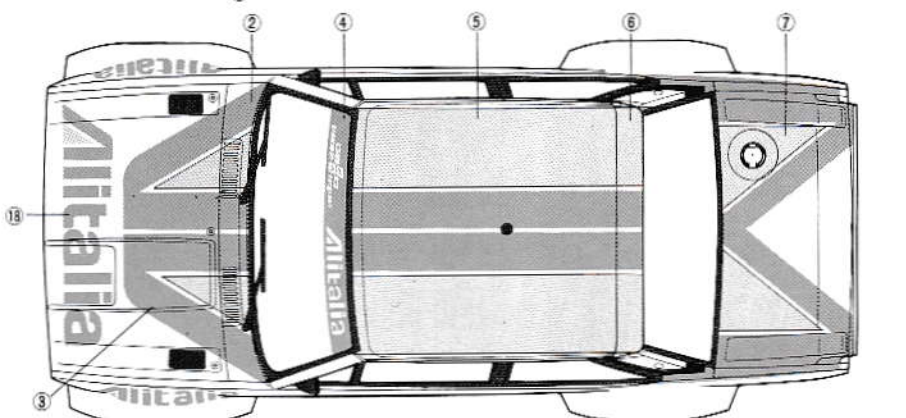
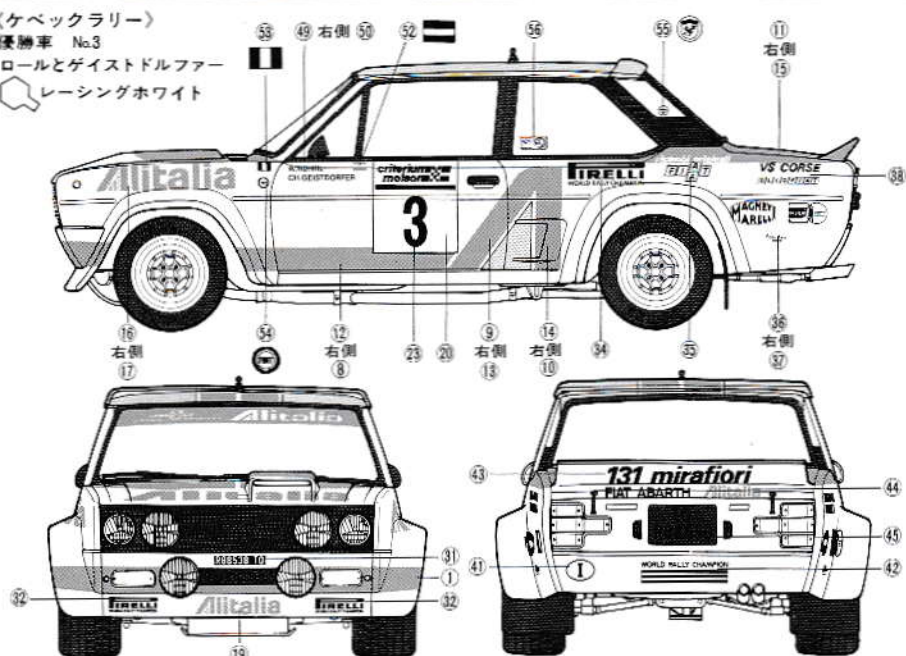


〈ケベックラリー〉

優勝 No.3

ロールとゲイストドルファー

レーシングホワイト

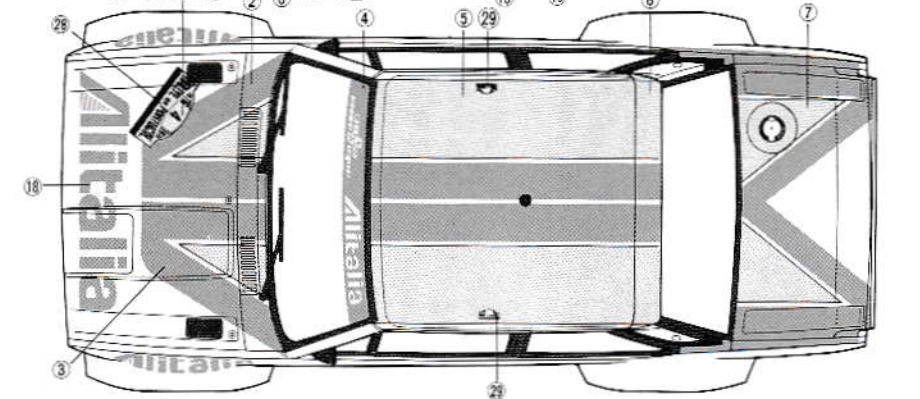
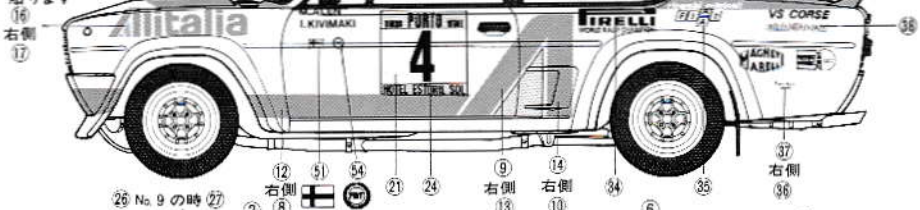


〈ポルトガルラリー〉

優勝 No.4 アレンとキビマキ

レーシングホワイト

前面と後面はNo.3を参考に貼ります

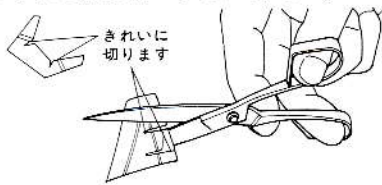


APPLYING DECALS

《スライドマークのはりかた》

1- 《マークをはる前に》

スライドマークを貼る所のほこりや油気を、ぬらした布で良くふきとって下さい。



2- 《マークを切りはなす》

はりたいマークをハサミで切りとります。必ずニス（透明な）部分をきれいに切りとります。

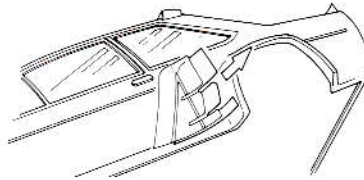
3- 《マークをぬるま湯にひたす》

ぬるま湯に10秒程ひたしてからひきあげタオル等の布の上におきます。あまり長くぬるま

湯につけておくとのりがとけマークがモデルにつきにくくなるので注意して下さい。

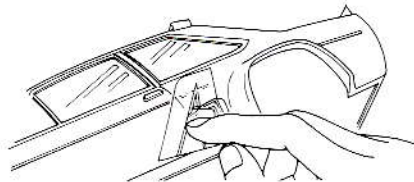
4- 《マークをはる》

台紙のはしを手でもち、マークをスライドさせてモデルに移して下さい。



5- 《マークを正しい位置に移す》

指に少し水をつけてマークをぬらしながら正

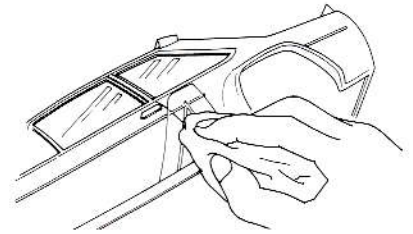


しい位置にずらしませす。

6- 《布で水分をとる》

タオル等のよく水気をすうやわらかい布でマークの内側の気泡をおし出しながら、おしつけるようにして水分をとります。

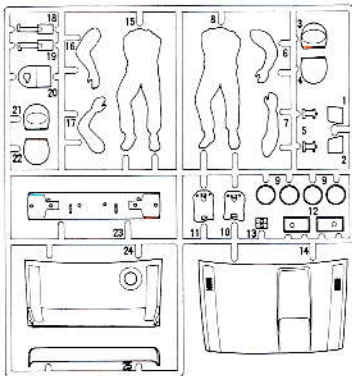
マークをはる場所が曲面や凸凹している時は、むしタオルでマークをおさえて下さい。マークがモデルの形になじみます。



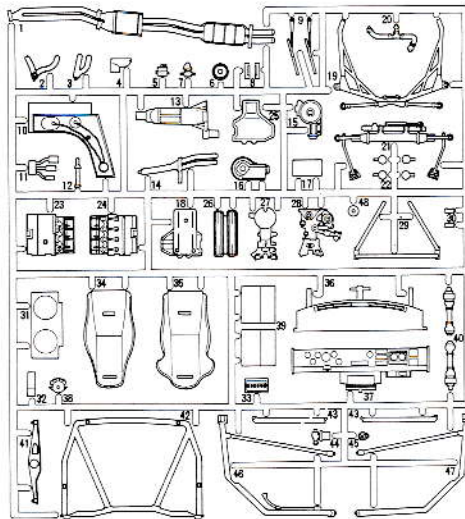
マークの中で可動部分にかかってしまうマークがあります。そのままはってマークが完全に乾いてからナイフで切れ目を入れて下さい。

PARTS

A 部品



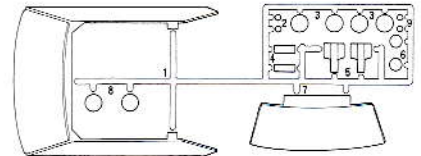
B 部品



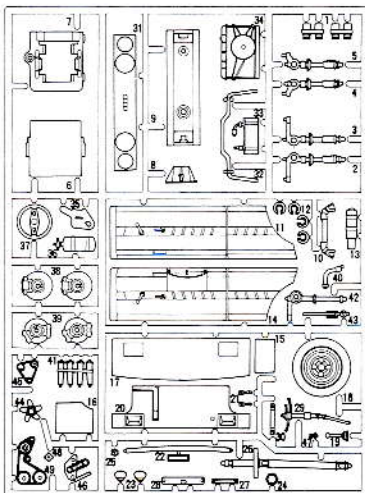
D 部品



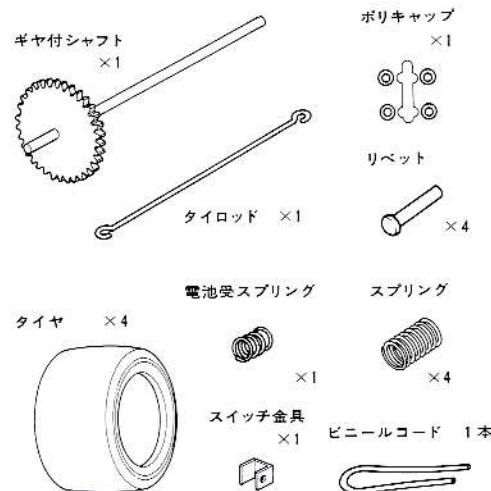
E 部品



C 部品



金具袋詰



万一不良部品、不足部品などありました場合には、当社アフターサービス係までご連絡下さい。

〒422-8610 静岡市恩田原3-7

田宮模型アフターサービス係

☎ 054 (283) 0003

営業時間/平日(月~金曜日)8:00~20:00 祝日▶休み

TAMIYA COLOR

タミヤカラー(エナメル塗料)

筆塗り塗装にぴったり。のびが良く筆ムラ、泡立ちもほとんどなし。つやの良さもエナメル塗料ならではの、もちろんスプレー塗装もOK。

TAMIYA COLOR

タミヤカラー(スプレー式)

美しい塗装が手軽に楽しめるスプレータイプの塗料です。ミリタリーモデル用、カーモデル用、一般工作用がそろっています。

TAMIYA CEMENT 40ml

タミヤセメント(ピン入り)

プラスチックモデル用液体接着剤。安定性のいい使い易い四角いピン入り、容量もお徳用です。

田宮模型
静岡市恩田原3-7 〒422-8610